

第24号
(4月号)
2015年
4月1日

七里ヶ丘子ども若者支援研究所
それが社会参加だ！

住所：鎌倉市七里ヶ浜 2-31-12
携帯：090-7212-4055
Email: qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp
編集長：新舛秀浩
発行責任者：滝田衛

3月15日、研修会「**教育とはなにか？を考える Part2～子どもからみた学校・教育とは～**」を開催しました。当日は中学不登校経験の高校1年生らをお招きし学びあいました。会員の感想で当日の報告をいたします。ゲストならびに参加いただいた皆様、ありがとうございました。

「教育のあるべき姿とは・・・」島根三枝子さん(会員)

文部科学省は不登校やイジメの問題を少しでも減らしたいと、あれやこれやと手を尽くしてきたそれでも一向に減少していない。問題の捉え方、手の尽くし方が違うのではないのでしょうか。不登校を経験した彼は自分を守るために鋭い感性と行動力で、不登校を余儀なく選んだ。彼はやりたいことがあり、それを成し探求する力をもっていた。そのことは周囲の人たちにとって、眩しく、違和感を抱かせてしまったのかもしれない。学校の中では好奇心は人のかかわりに邪魔だったと言える。



当日の会場(川辺悟史さん撮影)

教育の本来あるべき姿は子どもの成長を手助けすることであり、上から押し付けることではない。人生とは人それぞれが自分の想いで歩いていくものです。学校はその想いを模索するところであってほしい。まず自分がどう生きたいかがあり、そのためになにが必要で、どうしたいか、どうしなければならないかです。学校には学びがあり、遊びがあり、体験があり、仲間が居る。模索するには素晴らしい場所と言える。彼がそうしたように折り合いをつけることを学べる場でもある。だからこそおとなはきちんと整えておかなければならない。

ところが今の学校では困難がともなう。折り合いは抑圧になり自分を壊してしまう危険がある。学びは評価され、人格までも否定されることがある。学校が義務教育とされ教育の場とするのであれば、誰でもが利用でき考える場であり少なくとも自分で居られる場であって欲しい。

彼は学校で様々なことを学んで強くなった。これからの人生を自信をもって実名で生きていってほしいと、私は心から応援したいと思う。

コラム風

ぼくは、学校などに苦戦する女子Nさんと親御さんに、1年半よりそっている。月2回ほどのカウンセリングを続けている。とある雑談から、ギターを弾くカウンセリングが始まった(笑)。そして8ヵ月、ファミリーが加わるギターコンサートを開催することとなった。

Nさんは、学校に行きたいのにいけない女子。目覚める時間は午後から夕方、寝つくのは明け方。夕闇がせまるころ起床、一日がおわっている現実には落ち込み、自分を責めるNさんだった。



専門家の結論はいたってシンプル、「生活リズムを直し、早く寝ること」。でもできない。周囲は、そして自身も親も“責任”を問うかたちで「改善」に立ち向かう。ぼくは違和感を抱き、「改善」よりも“遊び”をとにもする。家では小さい頃から漫画雑誌(多彩なストーリー)をつくり、12歳頃からギターを弾く。通室教室で絵をえがき(センサイ!)、ときどき学校行事や活動にさんかしている。コンサートでギターを弾き歌う、これがNさんの生きる姿とおもう。(滝田衛)

3月15日子ども若者応援団会議 研修会後の1時間、新舛団長代行(前代表:小幡・代行:永野は所要で退席)を中心に定例の会議をおこないました。はじめは参加者の近況。Aさん「今の仕事を4月で退職です」、W父母「家族は穏やか、年ですので一区切りの挨拶にきました」、Sさん「単位修得でき歯科大2年修了、写真部も会計係に」、全14人が語りました。

その後、次年度子ども若者応援団のすすめ方を話し合いました。意見をしょうかいたします。

- ・ プラットホームの活動を。さまざまな団体が交流できる場づくりを。
- ・ 不登校やひきこもりに特化する活動をやりたい。
- ・ 障がいや非行も、**子どもの育ち、親の子育て**に直面する。
- ・ **障害の子**を育て、普通の子のように言えばわかるのではなく、時間がかかる。



(左写真:研修会の新舛・永野)

親が焦ってしまいイライラする。たとえば箸の持ち方も。食事のときは音楽をかけ穏やかに。その結果、子どもが音楽に興味を持ち、この子の一生の文化的なテーマとなり、いまピアノに取り組んでいます。

- ・ 根本は同じ。生き方をさがすために迷い悩む。成長に寄り添い協力し合える場を知らず見つけにくい現実。**情報の発信と交流の場づくり**が必要。その積み上げで、不登校, ひきこもり, 障害の理解と協力が生まれる。※太字キーワード「子ども若者大交流会(仮)」予定通り8月に実施しましょう。準備を始めます。

それぞれの風

○「ぼくはストレスに弱いから外に出ない」、訪問し重ねた会話、究極のHさん発言。Hさんは、聡明な頭脳と社会分析力、さらに親や家族への愛情にあふれている。以前は「何もしない」「親がいなくなったら死ぬ」といった。会話を重ねるうちに、大人や社会の追い込みから解放され、自分を語り始め (春が来たコンサート寄せ書き) た。その時、ぼくは閃(ひらめ 表コラムコンサートの一曲バンプオブキーン睡眠時間にこの言葉が使われ気になっている)いた。Hさんはストレスに極めて強いことに。不登校やひきこもる子ども若者は、一人でいる強さをもち頑(かたく)なである。



ぼくはストレスを感じる時、人の中に身をおき、左右を見て自分を確かめ、解消しようとする。人にまみれてストレスを紛らわせ、自分を実感。ストレス解釈によるが、家でストレスと向き合い、うけおうHさんの強さを実感する。(滝田)

○Wは仕事を休まず、3か月の試用期間も残りわずか。頑張っしてほしいです。(母) 編集後記・研修会での話を聞いた青年。島根さんも書かれてるように目標もあり素晴らしい青年でした。このような青年の居場所が学校に無いというのは残念でなりません。(新舛秀浩)

【ご参加下さい】

応援団会議は横須賀市市民サポートセンター午後2時～4時会員の自由な集まりです。

4月研究所開設日程(駐車場有)相談時間10時～16時土日訪問はご相談

6日(月)	×相談 予約有	20日(月)	相談
9日(木)	相談	23日(木)	相談
13日(月)	相談	27日(月)	×相談 他事業
16日(木)	×相談 他事業	30日(木)	×相談 休業
19日(日)	応援団会議		